

マンションデモクラシーの実践

～住民の手による活きたマンション管理～

12月12日(土)

2015年 大阪市立
住まい情報センター

3階ホール

大阪市北区天神橋 6-4-20

参加費:無料 資料代:1,000円

お問合せ・参加お申込みは

集合住宅維持管理機構ホームページ (<http://www.kikou.gr.jp>) から



理事長コラム

マンション管理組合での話し合いや合意形成で心がけたいこと

ある会合の後の懇親会で質問を受けた。マンションの理事をしているのだが、理事会ではいろいろな意見が出てまとめるのに苦労する。できるだけ相手の意見を受け入れるようにしているのだが、どうしても譲らないで主張した方が良いのはどんな時か教えてほしいと尋ねられた。そのような場合の対応はケースバイケースで、一般論で答えるのは難しいのだが、要は管理組合の理事会や集会での話し合いで、どのような点に心配りをしていたら良いかを述べれば良いように思って少しの間その人と話し合った。

私が経験した中でとても大事だと感じたのは、阪神大震災の折の管理組合での話し合いを振り返ってのことだが、住民の間に深刻な感情的対立を絶対生み出さないようにすることだった。「あの人の顔を見るのも嫌だ」というような状況になると、どのような意見に対しても聞く耳を持たなくなり、対立は解けなくなる。同じマンションで暮らしている同士がこのようになるのはどうしても避けたい。感情的対立を避けるのには、集会での提案の内容や議論の進め方、発言の仕方などへの配慮が基本なのだが、軽いパーティなど、楽しい話題で住民が打ち解けあう場を設けるといった工夫も有効のように思われる。

第二に、組合の中での意見交換には時間をかけるようにしたい。よく指摘されていることだが、いろいろ異なる意見をよく聞くこと。そしてそれらの異なる意見のバックにどのような事情があるか迄理解が深まるようにな

ると良いように思う。

第三に、話し合っている議題についての情報を多くの人で共有できるように出来るだけ心がけること。そのためにニュースを作ったり、アンケートを取ったりなど手間が掛り時間が掛ることもあるが、住民みんなが理解を深めるのは大切なことだ。

第四に、理事長や集会の議長などの心配りは大事だ。当然のことだが参加者が発言しにくい雰囲気にならないようにしたいし、また一人の人が長い時間かけて発言するようなことも避けたい。そのような場合、議長は柔らかに注意して欲しい。理事長などのリーダーは多くの人

の発言を求めるようにして議論を進め、自分の意見を通すことに執着しない配慮がいる。しかし、どうしても譲れず、その方向にまとめる必要がある場合があるが、そのような場合、まず丁寧に説得すること、そしてその場で決めず、保留して時間をかけて継続して議論していくことも考えたい。その際、譲れないとの判断には充分な裏付けというか道理が求められよう。感情的な対立は避け、どこまでも理性的な話し合いの場が理想だろう。

こんなことを話し合っただけの方とは別れたのだが、皆さんはどのように思われるか。以上に考えたことは前々回に考えたマンションデモクラシーを具体的に実践していく折の展開の一部なのだとも思っている。

梶浦 恒男